

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS

老和会しめ縄づくり



(上) 幸せを願い土川老和会がしめ縄づくりをがんばりました。

(左) 年末には半道寺自治会のもちつき大会を楽しみました。



内 容 CONTENTS

- 第4回定例会の概要 2～4
- 一般質問 5～9
- 先進地に学ぶ 9～10
- 決算の審査概要 11
- 委員会審査のあらまし 12～13
- 市民の声、編集後記 ほか 14

年頭のごあいさつ

議長
茂木
隆

市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい平成31年を迎え、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

また、平素より市議会に対し、温かいご支援とご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、1月の豪雪に始まり、夏の猛暑や度重なる台風の来襲により、自然の脅威を感じた1年ではありましたが、夏の甲子園における金足農業高校の快進撃のおかげで、地元秋田が大いに盛り上がった年でもありました。

今年4月からは、時間外労働の上限規制の導入や年次有給休暇の確実な取得等「働き方改革関連法」が順次施行されるとともに、10月からは、消費税率の引き上げや幼児教育・保育の無償化等が予定されており、市民生活にそれぞれ影響するものと思われまます。

市議会といたしましても、日々変わりゆく社会情勢に柔軟に対応する必要があると考えているところであり、引き続き情報収集や状況把握に努め、的確な判断と積極的な政策提言で、市当局とともに尽力してまいります。

また、「市民に開かれた議会」を目指し、本会議のインターネット配信、FMラジオによる議会番組の放送などのほか、昨年8月からは政務活動費の領収書をインターネット上で公開しており、今後も議会の透明性の向上に努めます。

これからも、市民の期待にこたえるべく、不断の議会改革を進めるとともに、広く皆さまの声を聞きながら鋭意努力してまいりますので、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

結びに、市民の皆さまのご多幸をご祈念申し上げますとともに、大仙市のさらなるご発展を願い、あいさついたします。

第4回定例会

第4回定例会は、11月27日から12月17日までの21日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の市政報告が行われました。また、継続審査となっていた平成29年度一般会計・特別会計歳入歳出決算18件、市当局提出の人事案14件、条例案3件、補正予算案7件を、それぞれ認定・同意・原案可決しました。

本会議4日目に、市当局提出の条例案1件、単行案5件、補正予算案2件を原案可決したほか、請願1件を趣旨採択、陳情5件を採択、1件を趣旨採択、2件を不採択とし、意見書案5件を原案可決しました。

一般質問は、2日間にわたって9人の議員が市政全般について、市当局に質問しました。主な内容は次のとおりです。



本会議第2日目 一般質問

人事案

▼内小友財産区管理会財産区管理委員の選任について

【全会一致で同意】

▼大川西根財産区管理会財産区管理委員の選任について

【全会一致で同意】

内小友と大川西根財産区管理会財産区管理委員、それぞれ7人の任期が平成31年2月7日をもって満了することから、その後任の選任について全会一致で同意しました。

条例案

▼大仙市特別職の職員で非常勤のもの報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【全会一致で可決】

国では、農業委員会による農地利用の最適化に向けた活動を推進するため、活動実績や成果に応じて交付金を交付する農地利用最適化交付金事業を実施しています。

この条例案は、大仙市においても農地利用の最適化に向けた積極的な活動を促進するため、この交付金事業を活用し、活動実績や成果に応じて報酬を支給することができることとしたものです。

第4回定例会の概要

こんな質問がありました

佐藤文子議員（日本共産党）

【質問】

① 交付金申請には記録簿を作成しなければならぬが、敬遠されるのではないかと。

② 委員の活動地域により、活動や報酬に差異が生じないか。

③ 実績と成果は、誰が正しく評価するのか。評価に不満が出ないようにはすべきと思うがどうか。

【農業委員会事務局長】

① 現在の活動記録簿に加え、新たに記録簿を提出することになるが、委員の負担を軽減するため、できる限り簡便なものとする予定である。

② 支給に関しては、活動日数を基本に考え、集積が進んだ地区については過去の努力も考慮し、不平等をなくすべく交付金の一部を均等割、残額は活動時間に応じて支給する。

③ 交付金事業対象となる活動には分かりにくいものもあるので、事務局で集計する際、対象外は除き、判断が難しい活動は関係機関へ問い合わせの上、確約を得たものだけに限り交付申請をした。

単行案

▼指定管理者の指定について

【関連議案4件全会一致で可決】

補正予算

▼平成30年度大仙市一般会計補正予算（第5号）【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ7億212万6千円を追加し、補正後の総額は46億1105万8千円と

No.	施設名	指定管理者	指定期間
1	協和モーターサイクル場	秋田県モータースポーツ振興会	H31.4.1 ~ H34.3.31
2	南外体育館	厚生ビル管理株式会社	H31.4.1 ~ H36.3.31
	南外運動場		
	南外山村運動広場		
	南外テニスコート		
3	ふれあい体育館	株式会社オーエンス	H31.4.1 ~ H36.3.31
	仙北球場		
	仙北健康広場（屋内ゲートボール場）		
	仙北健康広場（屋外ゲートボール場）		
	仙北健康広場（テニスコート）		
4	南外ふれあいパーク	厚生ビル管理株式会社	H31.4.1 ~ H36.3.31

▼平成30年度大仙市一般会計補正予算（第7号）【全会一致で可決】

大曲中学校水泳プール改築事業での地盤改良工事の変更に伴う補正で3531万1千円の減額です。

なりました。

人事院勧告を受けた国の一般職の給与改定に倣い、一般職の人員費、議会議員及び市長等の期末手当の補正です。

▼平成30年度大仙市一般会計補正予算（第6号）【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5億254万9千円を追加し、補正後の総額は46億2360万7千円となりました。

主なもの

- ・秋田県議会議員選挙執行経費（統一地方選挙の日程前倒しに伴う期日前投票経費） 679万3千円
- ・協和地区温泉管理費（四季の湯浴室天井張替え工事に伴う休業補償費） 272万円
- ・住宅リフォーム支援事業費（実績見込みによる住宅リフォーム支援事業費補助金） 500万円
- ・校舎等維持補修及び施設整備費（小学校工アコン設置工事実施設計委託料） 755万3千円
- ・教育振興費補助金（各種大会派遣費補助金 小学校分） 124万1千円
- ・教育振興費補助金（各種大会派遣費補助金 中学校分） 477万円

請願

▼四ツ屋公民館の建て替えに関する請願 【全会一致で趣旨採択※】

陳情

▼臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書 【全会一致で不採択】

▼陳情 食糧の安全・安心を図るために農産物検査法及び食品表示法の抜本的見直しが必要 【全会一致で趣旨採択】

▼通学に伴う防塵舗装に関する陳情 【全会一致で趣旨採択】

▼安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善と大幅増員のため国に対し意見書の提出を求める陳情 【全会一致で採択】

▼「介護労働者の労働環境及び処遇の改善」のために国に対し意見書の提出を求める陳情 【全会一致で採択】

▼看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設のため国に対し意見書を求める陳情書 【全会一致で採択】

▼75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求める陳情書 【全会一致で採択】

▼介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を国に求める陳情書 【賛成少数で不採択】

▼「介護労働者の労働環境及び処遇の改善」のために国に対し意見書の提出を求める陳情 【全会一致で採択】

▼看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設のため国に対し意見書を求める陳情書 【全会一致で採択】

▼75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求める陳情書 【全会一致で採択】

▼介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を国に求める陳情書 【賛成少数で不採択】

▼「介護労働者の労働環境及び処遇の改善」のために国に対し意見書の提出を求める陳情 【全会一致で採択】

▼看護師の全国を適用地域とした特定最賃の新設のため国に対し意見書を求める陳情書 【全会一致で採択】

※趣旨採択とは…請願（陳情）について願意は十分理解できるが、実現性の面で確信がもてないといった場合に、趣旨には賛成という意味で議決する決定方法。

第4回定例会賛否一覧

議案等名	議決結果	だいせんの会				大地の会				新政会				共産党		市民クラブ		公明党		創生会		地域の会								
		高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	橋村誠	児玉裕一	高橋徳久	石塚 柏	鎌田 正	高橋幸晴	大山利吉	佐藤育男	後藤 健	金谷道男	橋本五郎	小松栄治	佐藤清吉	渡邊秀俊	茂木 隆	小山 緑郎	佐藤 文子	藤田和久	佐藤隆盛	三浦常男	秩父博樹	挽野利恵	富岡喜芳	本間輝男	小笠原昌作	
議案第96号 平成29年度大仙市一般会計歳入歳出決算の認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	
陳情第9号 臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	欠	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
陳情第19号 介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を国に求める陳情書	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	欠	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	●	欠	○	●

欠席者は欠、賛成者は○、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

議会のスケジュール

10月

- 1日 広報広聴常任委員会
議会改革推進会議
- 11日 企画産業常任委員会「所管事務調査」
観光推進議員連盟研修会
建設水道常任委員会「行政視察」(～18日)
- 16日 決算特別委員会「分科会会長・副会長会議」
総務民生常任委員会「所管事務調査」
広報広聴常任委員会「行政視察」(～26日)
- 23日 決算特別委員会「分科会会長・副会長会議」
- 25日 広報広聴常任委員会「行政視察」(～26日)

ようこそ 大仙市へ

行政視察の受け入れ状況をお知らせします。

(10月)

- 15日 岩手県矢巾町議会
(「国指定旧池田氏庭園」等の文化財を生かした地域の活性化について)
- 佐賀県鹿島市議会
(小中学校における学力向上の取り組みについて)
- 24日 新潟県長岡市議会
【※高橋副議長出席】
(花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」について)
- 30日 岡山県美作市議会
(新規就農者研修施設における研修、指導内容について)
- 31日 埼玉県八潮市議会
【※挽野議員出席】
(小中学校における学力向上の取り組みについて)

(11月)

- 15日 千葉県勝浦市議会
【※金谷議員出席】
(空き家の適正管理の取り組みについて)
- 大分県佐伯市議会
(大仙市のまちづくりについて)
- 新潟県議会
(花火競技大会を活用した観光振興の取り組みについて)

11月

- 2日 県南地域市議会議員研修会
決算特別委員会「全体会・各分科会」
- 5日 教育福祉常任委員会協議会
議会運営委員会
- 6日 議員説明会
決算特別委員会「各分科会」
企画産業常任委員会協議会
秋田県市議会議長会議員研修会
- 8日 決算特別委員会「全体会」
議会運営委員会「行政視察」(～16日)
- 9日 議員説明会
議会運営委員会
- 14日 建設水道常任委員会「所管事務調査」
教育福祉常任委員会「所管事務調査」
- 19日 議員説明会
議会運営委員会
- 20日 建設水道常任委員会「所管事務調査」
- 21日 教育福祉常任委員会「所管事務調査」
- 26日 第4回定例会(第1日)
議員全員協議会
- 27日 議員全員協議会

12月

- 6日 第4回定例会(第2日)
議会運営委員会
広報広聴常任委員会
第4回定例会(第3日)
- 7日 議会改革推進会議
各常任委員会審査
常任委員会協議会(総務民生・企画産業)
- 10日 常任委員会「所管事務調査」(教育福祉・建設水道)
- 13日 議会運営委員会
第4回定例会(第4日)
- 17日 会派代表者会議
常任委員会合同協議会(総務民生・建設産業)
- 26日 広報広聴常任委員会



藤田 和久 議員（日本共産党）

Q 小中学校の冷暖房設備設置について伺う

A 小学校の普通教室に2カ年でエアコンの設置をする

質問 小中学校へのエアコン設置について、全て完了するまでの予算や年次計画を伺う。

教育長 小学校の普通教室への設置は2カ年で実施するが、概算で1年目が4億4,000万円余り、2年目が2億8,300万円余りと見込んでいる。中学校については、現在、重点施策として取り組んでいる学校トイレの洋式化の進捗状況を考え合わせながら、今後検討していく。

質問 小中学校の体育館へ暖房設備を設置できないか。

教育長 暖房機の設置状況は、設置型が10校、移動式が22校に配備されている。限られた予算の中で学校のトイレ改修やエアコン設置などに加え、学校施設の老朽化対策事業などがあるので、こうした事業を優先して行いたい。

◆灯油購入への補助・助成は？

質問 石油高騰の中、低所得者層を対象に2013年度に実施した「福祉灯油制度」を実施できないか。

西山副市長 市では、平成19年度と25年度において、急激な灯油価格の高騰を受け、灯油購入助成券を交付したが、今回は、一旦高値はつけたものの6週連続で値下がり傾向にあることから、現時点では助成を考えていない。今後も灯油価格などの推移を注視していきたい。

◆イージス・アショア設置・配備の見解は？

質問 非常に危険なイージス・アショアの設置には多くの県民が反対しているが、市長の見解を伺う。

市長 必要性や安全性、リスク等について国から丁寧な説明が必要であり、秋田市新屋地区には住宅地や学校等が近接しているので、住民の十分な理解を得た上で、慎重に判断することが重要だと認識している。

質問 県の市長会で協議し、反対の立場から県や国に対し要請できないか。

市長 現在、国で調査中であり、県や秋田市の方向性も示されていないため、今後の動向を見据えた上で対応を検討してまいりたい。



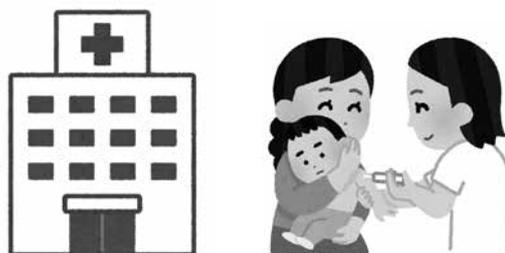
三浦 常男 議員（市民クラブ）

Q インフルエンザ予防接種費用の助成は

A 実施に向けて検討してまいりたい

質問 横手市や湯沢市、美郷町では、生後6カ月から13歳未満の子どもには2回まで、妊婦の方へは1回まで、インフルエンザ予防接種費用への助成を行っている。当市でも、子どもと妊婦の方への助成を実施できないか伺う。

市長 子どもと妊婦の方がインフルエンザに罹患した場合、高齢者と同様に重症化する危険性が高いとされ、インフルエンザ予防対策の中でも重要なものであると認識している。特に、生後6カ月から13歳未満の子どもは2回の接種が必要なことから、接種費用の助成は子育て世代の負担軽減を図る総合的な支援の一つと捉えている。大曲仙北医師会から助言をいただきながら、実施に向けて検討してまいりたい。



質問 さらに近隣の市町村では、中学生・高校生にも1回まで、インフルエンザ予防接種費用に助成をしている。当市の若年者への助成を実施できないか伺う。

市長 若年者としての中学生と高校生への助成についても、個人の感染予防に加えて、学校での集団発生拡大の防止を図る上で有用なものと考えられるので、同様に検討してまいりたい。今後も、市民が予防接種を受けやすい体制を整備し、感染症対策の充実と医療費の抑制に努め、健康増進につなげてまいりたい。



秩父 博樹 議員 (公明党)

Q マイ・タイムライン作成の取り組みを広げていくべきでは

A 「災害時の逃げ遅れゼロ！」を目指し取り組む

質問 災害時の「逃げ遅れゼロ！」を目標としたマイ・タイムライン作成の取り組みを、市全体に広げていくべきと考えるがいかがか。

総務部長 自主防災組織で災害時のマイ・タイムラインを作成することは、市民の防災意識の高揚や避難率の向上に有効であり、活動の活性化にもつながるものと期待できる。

来年度より自主防災組織等活動育成補助金の補助メニューとして「マイ・タイムラインの作成」を追加し、自主防災組織で取り組みやすいようマニュアルを作成するとともに、本年度より実施している地区防災マップの作成支援と併せ、その有効性をPRし、「災害時の逃げ遅れゼロ！」を目指し取り組んでいく。

質問 公共施設等へのAEDの設置場所や設置方法について、先進事例を参考に検討するとした答弁のその後の状況を伺う。

総務部長 現在、消防本部救急救助課と協議し、消防署や消防分署の位置と救急車の到着時間をもとに、屋外に設置することが効果的な公共施設を選定している。

今後、選定した施設の冬期間の除雪や屋根からの落雪状況等を確認し、設置可能な場所について施設管理者と協議していくほか、救急車の到着に時間がかかる地域の自主防災組織へ、AEDへのニーズや救命講習の受講についてのアンケートを実施するなど、屋外設置に向け準備を進めていきたい。

質問 コンビニエンスストアにAEDの設置を働きかけるとした答弁のその後の状況を伺う。

総務部長 市内43店舗へ調査したところ、現在、独自に設置している店舗はなく、また、多くが救急車の到着にあまり時間を要しない箇所に立地している状況にあった。

コンビニエンスストアは24時間営業していることから、夜間等における救急事案が発生した際には、AEDの設置は有効であると認識しており、今後、市全体で効果的な人命救助体制の構築を進めていく上でも、AEDの設置を働きかけていきたい。

このほか、食品ロス削減の取り組み、SDGsの取り組みについて質問しました。

※マイ・タイムラインとは…これから起こるかもしれない災害に対し、自分自身とる防災行動をあらかじめ時系列で整理した予定表。



後藤 健 議員 (大地の会)

Q 放課後児童クラブにおける支援員配置の基準緩和を受けた対応は

A 支援員配置の基準は現行通り維持してまいりたい

質問 現在、1支援単位につき2人の支援員配置を定めている国の基準について、支援員不足により生じる待機児童の解消を目的に事実上緩和され、無資格者1人の配置も認める方向にあるが、当市の待機児童の現状と国の基準緩和を受けた対応は。

健康福祉部長 現在、受け入れを拡大した高学年の一部で待機児童が発生しているが、支援員の不足によるものではなく受け入れ定員の不足によるもので、今後規則で定める定員の見直しを進めて待機児童の減少を図ってまいりたい。

また、国では支援員の配置基準等が緩和の方向にあるようだが、児童の安全面や職員の負担を考慮すると、市で定めている基準を変えることなく、現行のまま維持する必要があると考えている。



◆大仙市公共施設等総合管理計画の進捗状況は？

質問 将来にわたって効率的な公共施設の維持管理を目的に、公共施設等総合管理計画を策定してから2年が経過しようとしている。このような計画はスタートでつまずけば、事業量や事業費のしわ寄せが後年に及ぶことにつながるが、現在の進捗状況について伺う。

市長 計画に定める改修や廃止、建替えなどのメニューは現時点で196件、そのうち廃止予定の1件を除いた195件が実施済みであり、施設の総量についても計画どおりの縮減実績となっている。今後も最終目標の33%縮減に向けて実行してまいりたいと考えるが、施設の縮減や廃止等については地域のご理解やご協力が必要不可欠であり、地域の実情や特性を考慮し、随時見直しを図りながら、より具体的な実行計画を策定して適正な施設管理を進めたい。



佐藤 隆盛 議員（市民クラブ）

Q 大曲厚生医療センターの現状について伺う

A 看護師の充足率は開業時よりも上回っており、充実した医療を提供できる体制となっている

質問 開業して4年半経過し、平成26年12月議会で医師及び看護師の充足率、診療科の充実、医療の質を向上させるための提案等について質問し答弁をいただいているが、その後の状況について伺う。

佐藤副市長 大曲厚生医療センターに伺ったところ、医療法で定める臨床研修医と歯科医を除く医師の充足率は148.4パーセントと、4年前よりも39.5ポイント上回っており、看護師の充足率は269.5パーセントと、4年前を27ポイント上回っている。診療科については、常勤医師が不在であった皮膚科、眼科に平成29年度から常勤医師を1名ずつ配置、麻酔科医師も5名の常勤医師が配置されている。また、がん診察連携拠点病院として、手術、放射線治療、薬物療法から看取りまで、がん診療に関する切れ目のない医療を提供しており、県内で2施設目となる緩和ケア病棟でも、質の高い看護とケアの提供によ

り、稼働状況も高い割合となっている。

質問 大曲厚生医療センターとの「協議の場」で、どのような発言や要望をしてきたのか伺う。

佐藤副市長 大曲厚生医療センター運営委員会と大曲市医療・行政連携連絡会において、病院立体駐車場の利用時に車両混雑が発生していたことや、市民から病院職員の患者対応について改善を求める意見が寄せられていたこと、病院食に改善が求められていたこと、正面玄関前ロータリーの障がい者用駐車場に関する改善が求められていたことなど、新病院の開設に伴い発生した事案等について協議を行ってきた。開業から4年が経過し、初期の課題は徐々に解決されてきているが、引き続き協議の場を継続してまいりたい。

質問 大曲厚生医療センターの充実こそが市街地発展、活性化につながると思う。施設本来の目的に沿った経営方針に向かっているか、市長の考えを伺う。

市長 医師の確保にはできる限り協力してきた。経営面についても、今後勉強させていただきたい。地域の中核病院なので、市民・地域の期待に応える病院になっていただきたい。



佐藤 育男 議員（大地の会）

Q 豪雨時の浸水被害軽減のため「田んぼダム」に取り組めないか

A 農家の協力を得ながら関係機関と連携し取り組んでいく

質問 豪雨時に、水田で一時的に水を溜めることでピーク時の排水を抑え、下流部の浸水被害軽減を図るための「田んぼダム」の取り組みについて伺う。

市長 市内中小河川地域の水田で「田んぼダム」に組織的に取り組むことで、洪水抑制効果が期待できるものとする。しかし、一定の洪水抑制効果を上げるためには、個々の農家で実施したのでは効果が小さく、広域な流域や土地改良区単位で取り組むことが必要であり、仙北地域振興局、関係土地改良区と連携し、農家の皆さま方に事業の効果をえられるように周知に努め、関係機関と一体となって取り組むよう進めていく。

ど、不動産に関する業界団体等と連携した空き家対策を実施する考えはないか。

佐藤副市長 危険な空き家を早期解決するため「空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、所有者に対して適正な管理を求めるとともに、解体費の一部を助成するなどの対策を講じており、空き家が減少するなど、一定の成果が得られていると捉えている。また、12月には仙北地域振興局が中心となり、不動産関係7団体と連携して空き家の無料相談会を実施し、専門家がワンストップで対応することで、空き家問題の解決の一助となったと考えている。市では現在、空き家バンクに登録された物件に対し、秋田県宅地建物取引業協会と連携し対応しているが、今後は協会の協力を得ながら、民間企業のネットワークを生かした不動産の総合的なコンサルティングによる空き家の利活用の促進と、空き家予防対策を行う相談体制の構築を図っていく。



◆空き家について業界団体と連携する考えは？

質問 空き家の所有者に対し、管理に関する意向を把握するためのアンケート調査を実施するとのことだが、その意向を踏まえ、空き家に関する相談会な



佐藤 文子 議員（日本共産党）

Q 高校卒・18歳年度末まで医療費の無料化を

A 県全体、国の施策として行われるべき

質問 18歳年度末までの医療費無料化は県内でも7市町村となっており、当市でも実施するよう求めるがどうか。

西山副市長 子どもの医療費助成は、保護者の経済的負担軽減、子育て支援の観点から重要な制度と認識しているが、高校卒・18歳年度末までの助成を安定的に継続していくためには、県全体、さらには国の施策として行われるべきものと捉え、制度の充実について引き続き、県・国に対して要望していく。

◆学校給食の無料化は？

質問 学校給食無料化は全国で82市町村、一部助成は424市町村で実施されている。子どもの貧困対策、食育の充実、子育て支援、「義務教育は無償」の立場から政府の責任で実施すべきであり、そのためにも市が先駆けて無償化を実施すべきと考え

るがどうか。

教育長 財源の確保や、市の施策全体の枠組みの中で判断すべきものと捉えており、学校給食については、これまで同様の対応をお願いしたい。

◆中仙地域の学校統合は？

質問 中仙地域の学校統合については、保護者アンケートにより判断したようだが、関係地域住民全体へのアンケートや集会等で意見を聴取すべきではないか。保護者アンケートの賛否の理由や、どのような意見があったかを併せて伺う。

教育長 直接就学に関わる保護者の意見を第一に考え、これまで統合に当たってのアンケート調査を行ってきたところである。アンケートの結果、学校統合を望む声が小中学校とも8割前後を占める一方、反対意見として「地域が寂しくなる」「地域の伝統文化行事の継承が心配」といった意見があった。



挽野 利恵 議員（公明党）

Q 合葬墓の整備計画は

A 今後検討すべき課題である

質問 墓地に対する意識が多様化しており、形式にとらわれない葬儀が増えている。幅広いニーズに対応できるよう、大仙市営の合葬墓を造れないか。

市長 本市の市営墓地の利用状況は、市内14の市営墓地3,460区画のうち3,246区画が利用され、214区画が空き区画となっている。このほか、既に利用されている区画が承継者不在となる場合を想定し、無縁供養塔を整備している。少子化の影響や、経済的な事情から墓の管理が困難になることへの対策として、都市部の自治体を中心として合葬墓の整備がされているが、県内では秋田市以外に4市町村で今後の整備を検討しているようである。本市においては現在、合葬墓を設置する計画はないが、今後の多様化する市民ニーズの状況や、市内の寺院墓地等における合葬墓の整備状況などを踏まえ、検討すべき課題であると考えます。

◆ごみ袋の大きさや枚数を変更しての支給は？

質問 乳幼児や障がい者、高齢者の紙おむつ処理に対し、ごみ袋を現物支給し喜ばれているが、支給されている45リットルの袋だと大きすぎるとの声もある。小さい袋にして同等に処理できる程度の枚数を支給できないか。

市民部長 平成20年度より導入した家庭ごみ有料化に伴い、日常的に紙おむつを使用している方の負担軽減を図るため、1年当たり45リットルの燃やせるごみ袋30枚の無償交付をしている。このごみ袋の枚数は他自治体の例を参考に、日常的に紙おむつを使用する方の排出量に相当する。しかしながら、高齢化・核家族化の進行などにより、一律の交付が各家庭の排出実態に合わなくなっていることから、45リットルと30リットルの選択交付制とし、平成31年度からの実施に向け取り組んでいく。



ごみ袋 上：45リットル 下：30リットル



小山 緑郎 議員（新政会）

Q 今後、大仙市が特に力を入れていく施策はなにか

A 「花火産業構想」「農業と食をテーマとする新たな活性化構想」「人口減少・長寿社会にあっても市民の皆さまが住みよさを実感し、将来に希望が持てるまちづくり」

質問 地方交付税が年々削減されていく中で、メリハリのある市政運営が必要になってくると思われるが、特に他市よりも誇れるもの、特長を生かして特に力を入れていく政策を三つ挙げるとしたら何を挙げるか。

市長 一つ目は「花火産業構想」の取り組みである。「花火産業構想第Ⅰ期」は、株式会社花火創造企業の創業、国際花火シンポジウム開催、花火伝統文化継承資料館開館と概ね順調に進捗し、現在第Ⅱ期構想の策定を進めている。引き続き取り組みを推進し、地方創生の深化を図っていく。

二つ目は「農業と食をテーマとする新たな活性化構想」の取り組みである。「いぶりがっこの産地化」への取り組みをはじめ、6次産業化や他分野との連携、戦略的な農業経営など、既存の農業の範ちゅうにとらわれない取り組みを推進していく。

三つ目は「人口減少・長寿社会にあっても市民の皆さまが住みよさを実感し、将来に希望が持てるまちづくり」への取り組みである。地域の生活基盤を維持する守りの政策として、各地域の身近な買い物や交通などの生活機能の拡充、日常生活に関わる道路や除雪などの生活基盤の整備に力を入れていく。特に地域公共交通については抜本的な見直しを進めており、地域目線に立った最適な交通システムを整備していく。

これらの政策を前に進めるためには、行財政改革を置き去りにはできない。効果的で効率的な行政システムの推進と、これまで以上の自主財源の確保により健全な財政運営に努めながら「明日の大仙を拓く新たなチャレンジ」に積極果敢に取り組んでいく。

広報広聴常任委員会



藤沢市で「カフェトーク」について学ぶ



川崎市でSNSの活用について学ぶ

当委員会では10月25日～26日の2日間、神奈川県川崎市と同県藤沢市の行政視察を行いました。

藤沢市議会で開催している「カフェトーク」は議会報告会の方式の一つで、テーマを絞って「ワールド・カフェ方式」(※)で開催しているとのことでした。以前の議会報告会は参加者が固定され、苦情や要望が多数を占めるなど、市民の意見を反映させて政策を作り上げる当初の目的とはかけ離れている状況だったとのことでしたが、「カフェトーク」ではその雰囲気から幅広い年齢層の参加が増え、出された意見を基に市長に対して「政策」として提言するなど効果を上げており、「政策提言」できる議会として非常に参考になる取り組みでした。

川崎市議会ではSNSの活用による情報発信について学びました。直接市民に情報を届けられるSNSの活用は当市議会においても検討すべき事項だと感じました。

(委員長 後藤 健 記)

※ワールド・カフェ方式…参加者を少人数のグループに分けて、カフェで話をするように気楽に話し合う会議方式で、自分の意見を言いやすく、他人の意見にも耳を傾けやすい特徴があります。

建設水道常任委員会



中津川市で水道事業の経営改善を学ぶ

法を導入する上で非常に参考になりました。

次に、東京都と面積が同じで、全国一の高山市の道路行政について視察しました。大仙市はその半分の面積ですが、除雪路の延長は高山市が1,023km、大仙市は1,766kmと大仙市の方が倍近い延長でした。除雪の経費は高山市が平成29年8億5千万円、大仙市が16億8千万円でした。除雪機械は、高山市が市所有38台、業者417台であり、大仙市の市所有が121台、業者163台と体制に大きな違いがありました。一方、高山市では凍結防止剤の散布に町内会や沿線住民の協力をいただいていた。除雪経費の住民1人当たりでは高山市が6,600円、大仙市は倍以上の14,000円でした。除雪路線の見直しや除雪経費の縮減に参考となる行政視察でした。

(委員長 石塚 柏 記)

議会運営委員会



長岡京市で議会改革を学ぶ

議決事項としていました。

福知山市議会では、市民の積極的な傍聴を募って、議会の情報発信と市民の参加促進を目指すことから、協議案件の内容に適した会場においての出張委員会の開催や、行政や議会に関心を高めてもらうことを目的に「高校生フレッシュ議会」を開催していました。ほかにも、より開かれた議会を目指すことから議会報告会を、市民の誰でも参加できる意見交換会形式での実施や、特定の団体(婦人会、青年会等)を対象に、テーマを決めて行う座談会形式でも実施していました。

今後、議会改革を進めていく上で、今回の視察は大変参考になりましたので、市民に身近な開かれた議会を目指して改革等に取り組んでいきたいと思ひます。

(委員長 児玉裕一 記)

平成29年度決算を認定

11月5日・6日に四つの分科会で審査を行いました。

◆決算特別委員長の審査講評

はじめに、ここ数年度にわたって、市債の発行を抑えて財政の健全化に努めていることは評価したいと思います。今後とも地方交付税の大幅な縮減が見込まれますが、必要な事業が委縮することがないようにしながらも、なお一層の財政の健全化に努めていただきたいと思えます。

次に、事務事業の実施に当たっては、前年踏襲することなく、常に見直しを重ね、効率的な事業の遂行と検証に努めていた点とともに、職員による事故や不祥事を未然に防ぐため、コンプライアンス体制の強化に努めていた点だと思います。

次に、時間外勤務について、時間外勤務の増加は、割増賃金の増加だけでなく、職務意欲や健康など労務



審査内容を述べる
橋村 誠 決算特別委員長

環境の悪化につながることから、課所長はその実態把握と管理を強化し、縮減に努めていただきたいと思えます。

次に、花火伝統文化継承資料館を含む「まちづくり」についてであります。

花火伝統文化継承資料館については、初年度は市民の興味もあり、来館者が多いことと思えますが、今後

も継続して来館者を確保し、観光収入や地域全体の活性化につなげるためには、部局間が連携し、さまざまな角度から施策を検討する必要がありますので、創意工夫した活用に向けていただきたいと思えます。

また、昨年度は、記録的大雨や震災による災害復旧事業費が大幅に増加するとともに、豪雪による除雪対策費も過去最高になりました。

職員の皆さまには、その対応に大変ご難儀をおかけしたところでありますが、今後も、このような災害は起こり得ることですので、こうした有事の際の職員体制の構築や、災害に強いまちづくりに努めていただきたいと思えます。

◆各分科会の主な審査意見（各意見の中から一部を掲載しています）
総務民生分科会

今後も増える空き家の対策については、全庁横断的な組織で取り組んでいたとき、具体的施策を早期に策定していただきたい。

企画産業分科会

企業誘致対策費について、本市の基幹産業である農業関係の業者、例えば、農畜産物加工業者などの誘致活動に努め、求職者に対し、幅広い業種の雇用機会の拡大を図りたい。

教育福祉分科会

0歳児の入所希望者が年々増加している中、保育士の確保は重要な課題と考える。保育士を養成する大学等に出向き、市（法人）の受入体制等について説明するなど、卒業予定者に対する就職の働きかけを強化するとともに、引き続き保育所等を経営する法人に対し、保育士の処遇や労働環境の改善を求め、当該法人と連携しながら保育士の確保に努められたい。

建設水道分科会

水害対策に係る内水排除の排水ポンプの設置について、排水管の口径は過去の水害の実績により決定されている。無駄なく効率よく設置するためにも、内水箇所の水害状況等を精査の上、適切な対策を講じられたい。

【賛成討論】

高橋徳久 議員（だいせんの会）

一般会計歳入歳出決算は、重要施策である産業振興・雇用、農業振興、地域振興、子育て支援、健康・福祉事業、防災・雪対策事業、教育の推進など各種事業に積極的に取り組まれ、厳しい予算の中、住民ニーズに沿った事業を展開し有効活用された決算である。財政健全化にも積極的に取り組んでおり、今後も市民生活の向上のため、引き続き努力されることを期待し賛成する。

【反対討論】

藤田和久 議員（日本共産党）

国の財政計画は社会保障削減路線に合わせた歳出の抑制や、公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の統廃合、公務員の削減など行革の一層の推進であり、地方交付税削減を狙ったものである。加えて地方交付税算定にトップランナー方式をさらに進め、新たに成果算定方式を取るなど、さらなる地方交付税削減が押し付けられている。平成29年度一般会計当初予算審議に当たり、国の地方財政計画に従ったものであることや、市職員の削減予算であることから予算案に反対した。本決算はその執行であり、認めることはできない。

採決の結果、反対2人、賛成25人とおり）
で認定されました。（賛否一覧表のとおり）

企画産業常任委員会

条例案1件、単行案1件、補正予算案1件、陳情1件を審査しました。

●大仙市特別職の職員で非常勤のものの報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【問】小作料の支払時期に対する改善要望と、農業委員及び農地利用最適化推進委員の活動内容の充実を図り、交付金事業の実施を推進していただきたいと考えるが？

【答】支払時期の改善については、要望していくとともに、活動内容の勉強会を開催するなど、充実した活動を促進し、農地利用の最適化を進めていきたい。

●大仙市協和モーターサイクル場の指定管理者の指定について

【問】年間の利用者数はどれくらいか？

【答】平成29年度は334件。7月以降は災害により、営業ができない状況だった。また、平成30年度は8月から営業を再開し、これまで217件の利用があった。

●農業と食に関する基本構想策定事業費について

【問】集荷状況から見て、農家の農協離れが心配されないか。これによって、この構想に対する影響も出てくるのではないか？

【答】J A秋田おぼこ管内の米の契約は前年比6%減、集荷率は10月末現在で85.3%であり、内訳については把握しづらい部分であるが、早場米は価格差に関しても有利であり、例年のような動きはあったものと思われる。今回の構想による新たな取り組みを生かし、農家の生産意欲を向上することによって、農協に対しても好影響を与えることにつなげていきたい。

●陳情第13号「陳情 食糧の安全・安心を図るために農産物検査法及び食品表示法の抜本的見直しが必要です」については、願意を妥当と認め、採決の結果、出席委員の一致をもって、本件は採択すべきものと決しました。

総務民生常任委員会

条例案3件、単行案1件、補正予算案4件、陳情1件を審査しました。

●職員の給与改定の内容は？

【問】今回の給与改定は平均0.2%引き上げられたが、引き上げ内容はどうなっているのか。

【答】引き上げの傾向としては、年齢の高い層には薄く、子育て世代等若い世代には厚い改定となっている。

●災害障害見舞金の支給対象は？

【問】災害障害見舞金の支給対象となる障害の程度はどれぐらいで、障害者手帳の何級が対象となるのか。

【答】障害者手帳が交付された方で、両目失明、両上肢や両下肢を全廃した等、重度の障害が残った方に支給される。障害者手帳の等級が支給基準ではないが、障害者手帳の等級と比較すると、症状により1級及び2級と3級の一部が該当する。



●陳情第18号「75歳以上の後期高齢者医療自己負担を2割にしないことを国に求める陳情書」については、願意を妥当と認め、採決の結果、出席委員の一致をもって、本件は採択すべきものと決しました。

建設水道常任委員会

単行案1件、補正予算案4件、陳情1件を審査しました。

●南外ふれあいパークの指定管理の理由は何か？

【問】施設を管理するだけであれば、地元の業者にしているのではないか。秋田市の業者にするメリットは何か？

【答】南外ふれあいパークに隣接するスポーツ施設があるために、ここを一体的に管理した方がより効率的であると判断した。また、業者を公募したが1社しか応募がなかったことも理由に挙げられる。

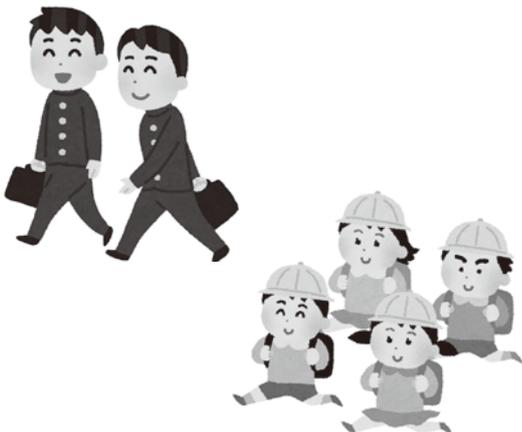
【問】今回の指定にあたり住民の声を聴いているか？

【答】地域住民にアンケートを実施している。住民から「グラウンド・ゴルフ場は、きれいに管理されている」「桜の木の剪定を要望どおり対応している」等の意見があったことから、適正に管理されていると判断した。

●通学路の防塵舗装の陳情

四ツ屋地区の「通学に伴う防塵舗装推進会」から、農道を防塵舗装に仕上げ、冬期間除雪対応をしてもらいたいとの陳情があったため、陳情者と現地の視察を行いました。

審査の中で、「願意は認めるが、その路線は水田に隣接し軟弱な地盤のため、防塵舗装や除雪に課題がある。また、通学する児童数も不明であり、街灯もなく防犯上の問題もあるので、本件は今後の通学の状況を見ながら検討すべきである」との意見があり、採決の結果、趣旨採択と決しました。



教育福祉常任委員会

単行案2件、補正予算案4件、請願1件、陳情5件を審査しました。

●ふれあい体育館等の指定管理者の指定について

【問】指定管理者の選定に当たっては、業者から提出された書類だけで審査をしているのか。また、現場でも確認をしているのか。

【答】事前の書類審査と、選定委員会においてのプレゼンテーションにより審査している。

●校舎等維持補修費及び施設整備費について

【問】豊川小や豊岡小など、統合する予定のある小学校にも空調設備を設置するのか。

【答】中仙地域の小学校の統合については、中仙地域を1校とするのか2校とするのか、また、どこに設置するのか等、保護者の中でも意見が分かれている。仮に1校とする場合でも、統合まで少なくとも5、6年がかかると思われるため、空調設備はきちんと整えておきたいと考えている。

●請願第9号「四ツ屋公民館の建て替えに關する請願」については、「願意は認めるが、現段階での建て替えは市の財政上厳しく、耐震診断の結果により、必要に応じて体育館棟の耐震補強や公民館棟の維持修繕をし、その後の建物の状況を見ながら、今後の建て替えについて検討していただきたい」との意見があり趣旨採択としました。

●陳情第9号「臓器移植の環境整備を求める意見書の採択を求める陳情書」については、「陳情書の提出者が団体の代表者ではなく、また、記載事項にも不明な点がある」との意見があり不採択としました。

●陳情第19号「介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善等を国に求める陳情書」については、「これまでの制度改正により保険外し的なことが行われ、これでは介護保険ではないのではないかとの声が高まった上での、制度を改善してほしいという国民の要望であるので、採択すべきである」との意見と「介護保険制度の改善となれば非常に難しい問題であり、国の制度に関し、現時点で見直しの意見書を提出するのはいかがなものか」との意見がありました。挙手採決の結果、賛成少数により不採択としました。

市民の声

「年代会のメモリアル」

旧大曲市には「厄払い梵天」という行事があります。これは、大曲中学校時代の男性同期生が42歳の厄年に梵天を制作し、諏訪神社に奉納するものです。そして、その時に「ミニ梵天」も制作し、これは会員宅や、ゆかりの場所に保管されています。せつかくの年代会のミニ梵天を一堂に集め披露してはどうか、という提案です。

また、各年代会の同意が得られたなら、保管し展示のできる場所があれば良いと思います。同期生の思い出の梵天として、故郷を離れた人たちが帰郷したときなどに訪れる名所になるのでは。梵天だけでなく、その時の各年代のアルバム、DVD、半纏なども一堂に集め披露できれば立派なメモリアルです。それには周りにある空き店舗や、空き家などを活用してはと思います。



大曲昭和五十一年会梵天奉納

(大曲地域
塩谷 國太郎)

3月定例会日程のお知らせ

2月22日(金)

本会議第1日(施政方針演説、議案等上程)

3月4日(月)

本会議第2日(一般質問)

3月5日(火)

本会議第3日(一般質問)

3月6日(水)

本会議第4日(当初予算質疑、議案質疑、委員会付託)

3月7日(木)・8日(金)・11日(月)

常任委員会審査

3月15日(金)

本会議第5日(委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

議長交際費(10月1日~12月31日)

項目	件数	金額
予算額		900,000円
既支出額	64件	479,011円
今回支出額	24件	173,776円
内訳	弔慰	1件 10,000円
	慶祝	9件 67,000円
	協賛	14件 96,776円
予算残額		247,213円



編集後記

あけましておめでとうございます。市民の皆さまには、たくさんの方の幸せが舞い込みますよう心からお祈り申し上げます。

昨年はいろいろな話題がありました。特に、甲子園での金農野球部の活躍は、全国津々浦々に轟き沸かせました。また、大曲市生まれのマルなど秋田犬も人気上昇中です。

「第16回あきたふるさと手作りCM大賞」で、刈野の大綱引きをテーマにしたCMが最優秀賞の「ふるさとCM大賞」を受賞し、地元でも大きな喜びとなっています。1月3日には、箱根駅伝で初の総合優勝を飾った東海大の9区を快走した大曲市神宮寺出身の湊谷春紀選手が、大きな夢と感動を与えてくれました。

今年も広報広聴常任委員会みんなで市民の皆さまへ、開かれたやさしい情報をお届けしたいと思います。

これから冬まつり、小正月行事が各地で行われますが、地域を挙げて伝承行事を大いに盛り上げましょう。

(委員 小笠原 昌作 記)

広報広聴常任委員会

- 委員長 後藤 健
- 副委員長 高橋 徳久
- 委員 小笠原昌作
- 委員 佐藤 隆盛
- 委員 佐藤 利恵
- 委員 挽野 文子
- 委員 佐藤 育男
- 委員 古谷 武美
- 委員 橋村 誠

